

第64期 株主通信

2014年1月1日→2014年12月31日

最先端のカスタマイズ・ ボトル・ファクトリーへ

TAKEMOTOは既製ボトルで
お客様のモノづくりのお手伝いをします。

証券コード: 4248



ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

竹本容器は2014年12月17日に東京証券取引所市場第2部に上場いたしました。これに伴い、2,000名を超える方が新たな株主様として加わっていただきました。当社グループは、1950年の創業以来65年間にわたり「生活上必要不可欠な容器―カタチ（容）あるウツワ（器）―を通じて、お客様の商品である内容物の価値を安全に包み、更にその価値と個性化を高め日本と世界の器文化に貢献すること」を使命と認識し、スタンダードボトルの開発や製品供給体制の充実を推進し、お客様に必要とされる企業を目指し邁進してまいりましたが、株式上場を弾みとして、世界へ向けての活動も今まで以上に推進してまいりたいと考えています。

2014年12月末時点において当社グループの保有するスタンダードボトルの金型数は2,704型になり、これらが貢献したことにより2014年12月期の業績は、売上、利益ともに前年同期を上回る結果となりました。

長年培ってきた「開発力」「技術力」「生産力」を活かし、今後も、日本のみならず、中国、アメリカをはじめ世界のお客様に当社グループの容器をご利用いただきたく、販売、供給網の拡大に努めてまいります。

これらの活動を継続・発展させることで、開発提案型



代表取締役社長 **竹本 笑子**

ボトルパッケージングメーカーとして、世界で最もお客様に必要とされ、チャレンジングで活気ある企業を目指し、日本と世界の器文化に貢献していきたいと存じます。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

事業の内容

私たちは、化粧品・食品・医薬品向けなどに

スタンダードボトル（自社で容器の企画、設計を行い、金型を自社所有している容器）を製造販売している会社です。

当社グループは、「日本と世界の器文化に貢献する」という経営理念のもと、「商品の価値や個性を強める容器や、内容物を安全に包み保存する容器」の開発及び提供を行っております。

当社グループの主なお客様は、化粧品・美容、食品・健康食品、日用・雑貨、化学・医薬品などの事業を営む皆様となります。また、自社で開発し、金型を保有し比較的少ない数量（場合によっては1ケース単位）から注文をお受けしていることから、1ケース単位でお求めになる個人事業者の方からのご注文も多数いただいております。

その販売地域は日本、中国、アメリカなど世界に広がっており、第64期連結会計年度の販売件数はグループ全体で4,603社となっております。

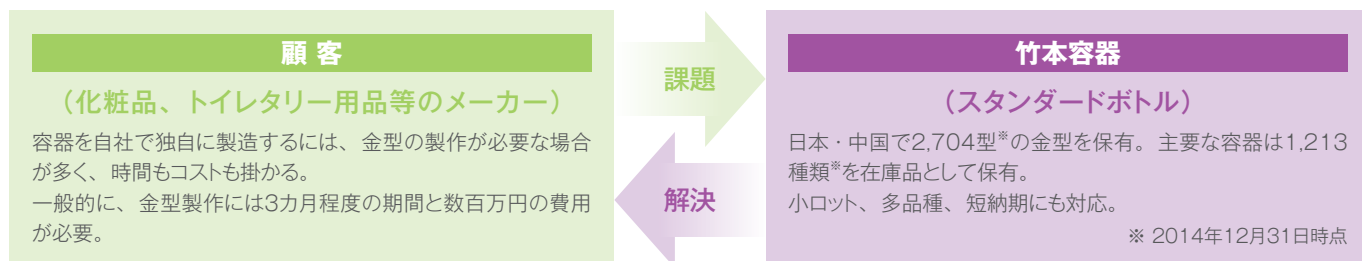
一般的に化粧品、日用品、食品・健康食品などの新製品開発に合わせてその新製品独自の容器を求める場合には、あらかじめ金型の製作が必要となり、相応の時間と費用が必要となります。このため、わざわざ金型を製作して独自の包装容器を開発しようとすると時間的・費用的な負担が大きくなります。製品そのもののライフサ

イクルが短くなり、次々と新しい製品が発売されている今日では、新製品開発時に過度のリスクを回避する傾向が強まっています。

当社グループでは、50年前にプラスチック容器の取扱を開始して以来、竹本容器独自で金型を製作しており、お客様には当社が提供する包装容器を必要ときに必要な数量だけ提供する体制を整えてまいりました。2014年12月末時点では容器製造に必要な金型を日本、中国で合計2,704型保有しております。その金型で生産されたプラスチックボトルや押し出しチューブ等の容器本体やキャップ、ディスペンサー（ポンプ、スプレーなどの液体定量吐出装置）等の付属品を総称してスタンダードボトルと呼んでおります。

その、スタンダードボトルを活用し、容器本体と付属品の組み合わせや着色、印刷などでお客様毎に個々の要望に応じたデザインを施すことで、独自性の高い容器を短納期かつ小ロットで提供することをカスタマイズボトルと呼んでおります。

さらに、スタンダードボトル以外の包装容器を希望されるお客様に対しても当社内での金型製作のノウハウを生かして特別注文の金型を製作し、包装容器の提供も行っています。



顧客のメリット

顧客は自社オリジナルの包装容器を、自前で金型製作するよりも短期間かつ開発コストを抑えて調達できる。

当社グループのスタンダードボトル

竹本容器が製造販売する容器は、化粧品、トイレタリー用品、食品、化学・医薬品向けのパッケージ（包装）として主に使用されています。

化粧品向け容器



食品向け容器



日用・雑貨向け容器



医薬品向け容器



押し出しチューブ



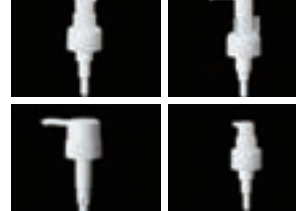
ガラス容器



キャップ



ディスペンサー



当社グループのビジネスモデル

当社グループは、2,704型の金型を自ら保有し、お客様に金型製作の費用と時間をご負担いただくずに、着色・印刷・二次加工にも対応した包装容器を提供しております。

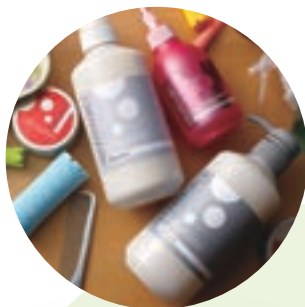
小ロット、多品種、短納期のご要望にも柔軟に対応することにより、2014年にはグループ全体で4,603社のお客様にご利用いただいておりますが、これまでのお客様との取引実績や市場調査の強化によりスタンダードボトルの更なる開発（新製品）を行い、今後は日本国外のお客様へもスタンダードボトルビジネスを提供してまいります。

機能性に留意した製品例



飲む時に邪魔にならないキャップストッパーを採用した運動時等の利用に最適な飲料用ボトル

デザイン性に留意した製品例



安全性に留意した製品例



キャップのティアバンドを剥がさなければ開封できない設計で開封確認と安全性を高めたボトル

バリア性に留意した製品例



空気中の酸素が透過しにくい樹脂を利用して、内容物の保存機能を高めたボトル

顧客

- 幅広い顧客基盤（4,603社）
- 国内外で販売
- 提案開発力
- マーケティング力

4,603社の顧客との取引実績を基に、商品の価値や個性を強めるデザイン、機能を有する容器の開発、個々の顧客ニーズを汲んだ営業活動を行っています。また、当社グループが提供する包装容器を世界中の人にご利用いただくために、日本、中国、アメリカ、東南アジアなどを中心とした顧客への営業体制を強化しております。

環境に留意した製品例



地方自治体等により回収された飲料用PETボトルを分別、粉碎、洗浄したものを原材料に使用したボトル

金型

- 豊富なストック（2,704型）
- 金型の標準化、共通化、小型化
- 品揃えの拡充
- デザイン・機能性に留意した容器開発

2,704型の当社グループが保有する金型をベースに、顧客が求める包装容器を、短納期、低コストで提供していくために、当社グループでは用途別、地域別それぞれにおいてデザイン、機能を有したスタンダードボトルの品揃えを充実させています。また、スタンダードボトルの開発コスト低減、開発所要時間の短縮化、開発件数の増加を目的として包装容器の製造に必要な金型の設計と製作に掛る手順・ノウハウの標準化にも取り組んでいます。

製品供給体制

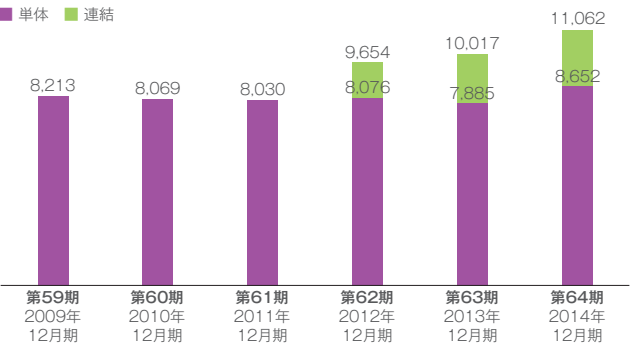
- 高品質、小ロット、多品種、短納期
- 国内外で生産
- カスタマイズ
- 技術開発

少量多品種、短納期に対するニーズやコスト要求、品質要求に応えるため、技術開発、人材開発、品質管理、生産管理を一貫して行っております。海外拠点においても、国内と同等の品質が確保できる体制を構築しております。

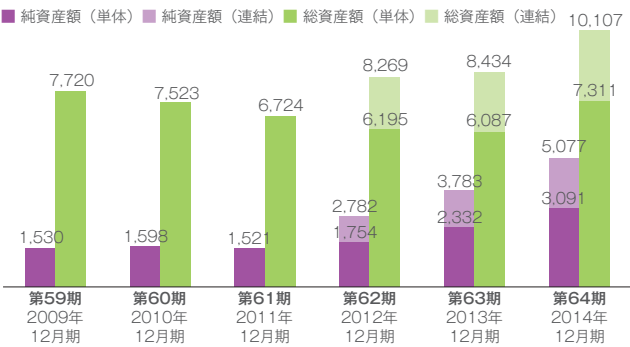


決算ハイライト

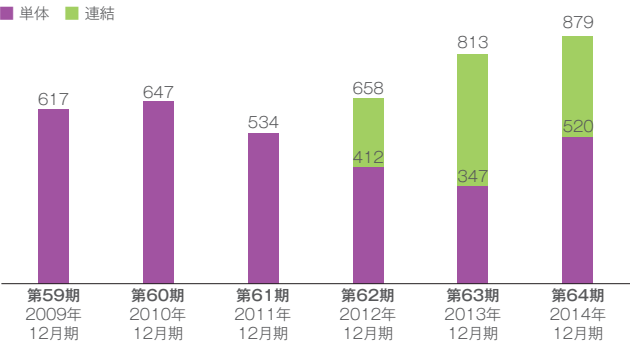
売上高 (単位:百万円)



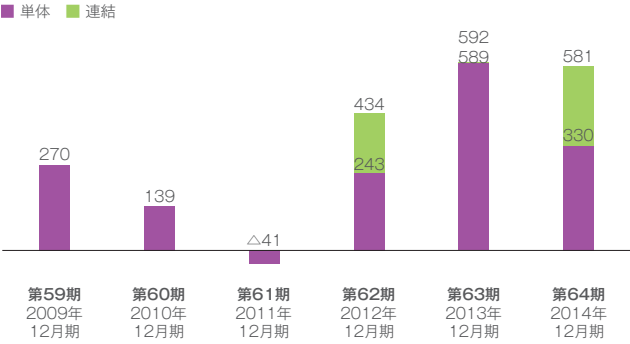
純資産額／総資産額 (単位:百万円)



経常利益 (単位:百万円)

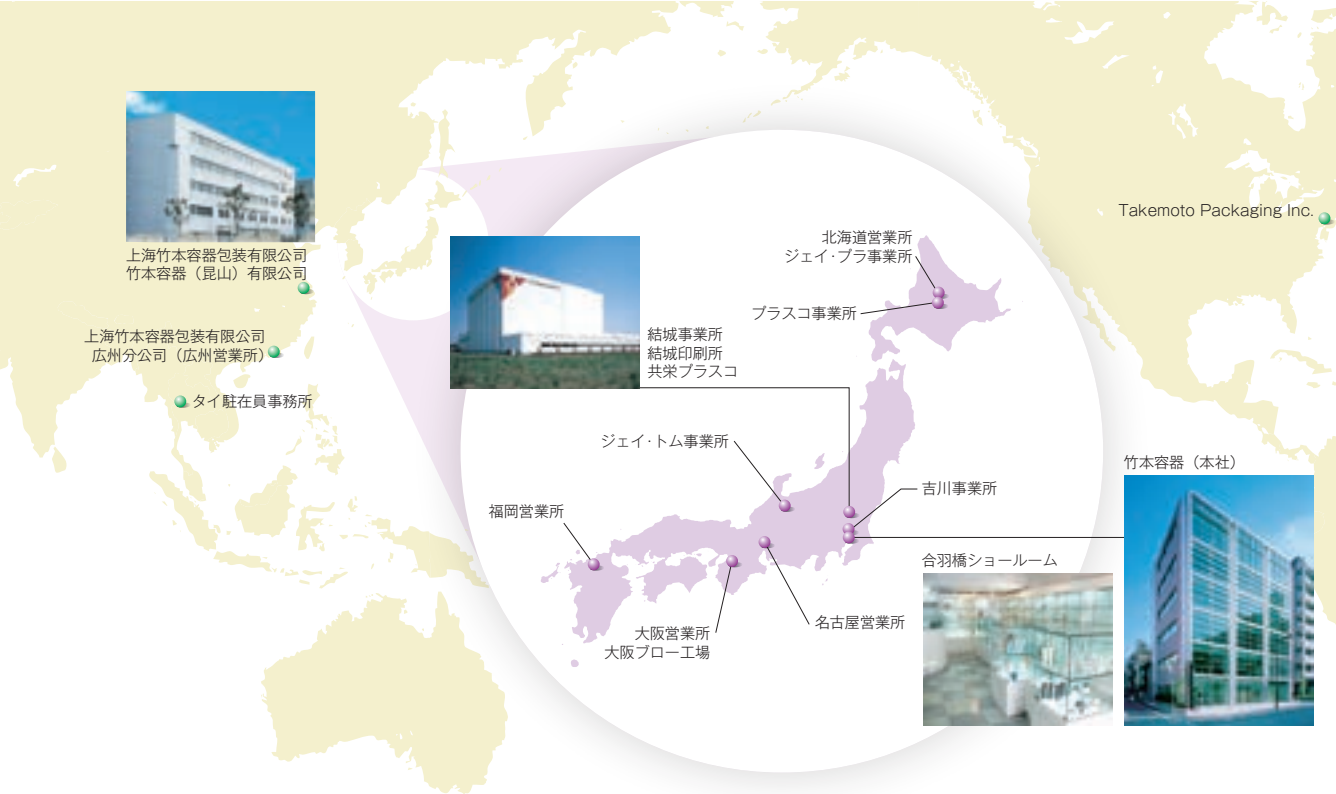


当期純利益又は当期純損失 (単位:百万円)



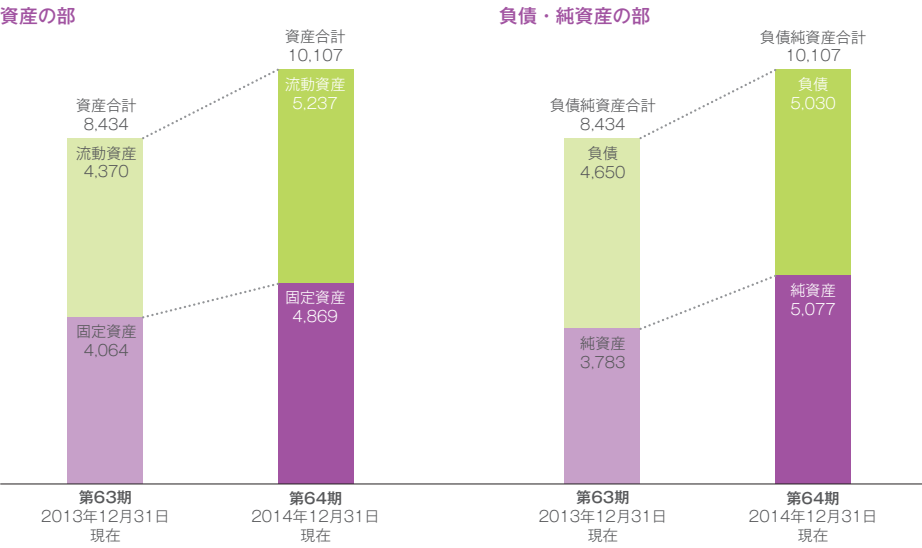
事業拠点

日本で販売するものは、一部を除き、日本国内の自社工場（7工場）及び協力メーカーで生産されています。
中国、アメリカで販売するものは、主に、上海竹本容器包装有限公司、竹本容器（昆山）有限公司で生産されています。



連結財務諸表

連結貸借対照表 (単位:百万円)



POINT

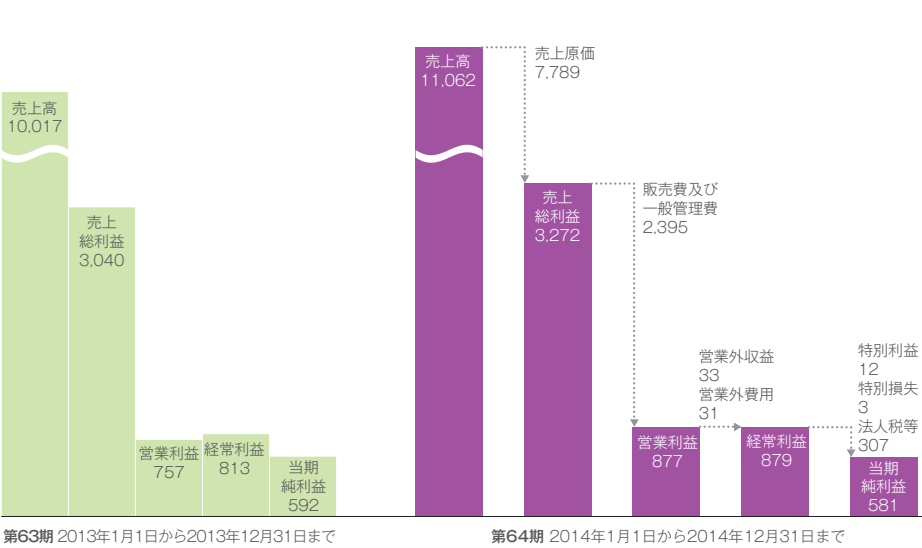
流動資産は、現金及び預金が6億26百万円増加したことなどから、前連結会計年度末と比較して8億67百万円増加の52億37百万円となりました。

固定資産は、土地及び建設仮勘定が設備投資により増加したことなどから、前連結会計年度末と比較して8億5百万円増加の48億69百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金が1億78百万円増加、未払法人税等が1億5百万円増加したこと及び長期借入金（一年内返済予定も含む）が2億93百万円減少したことなどから、前連結会計年度末と比較して3億79百万円増加の50億30百万円となりました。

純資産は、上場に伴う公募増資による資本金及び資本剰余金の増加、当期純利益計上による利益剰余金の増加及び為替相場の変動による為替換算調整勘定の増加などから、前連結会計年度末と比較して12億93百万円の増加の50億77百万円となりました。

連結損益計算書 (単位:百万円)



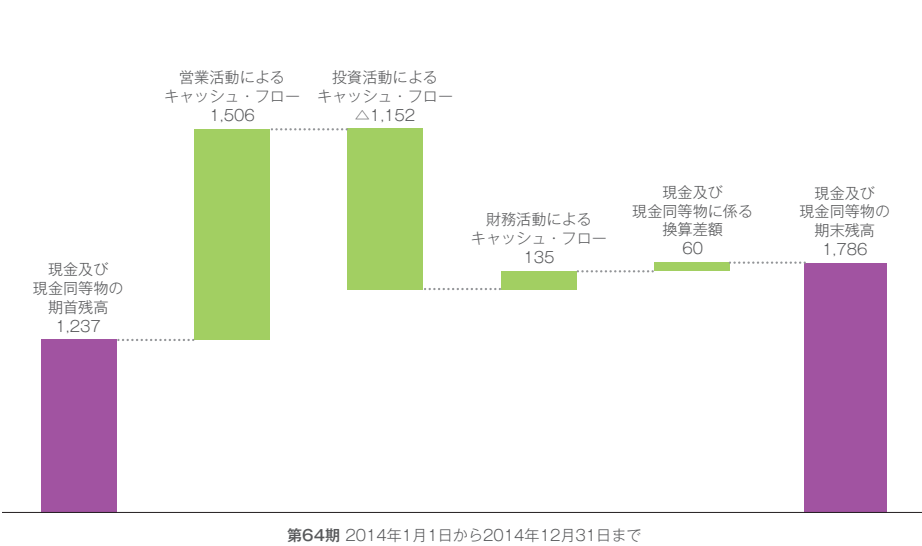
POINT

当連結会計年度の売上高は110億62百万円（前期比10.4%増）となりました。これは、日本国内が新規受注の増加により大幅増収となったこと。また、中国は顧客注文金型案件が伸びるも全体では微増となりましたが、円安効果で増収になったことによるものです。

一方、年初からのプラスチック原材料価格の上昇と特に中国における最低賃金の上昇、金型投資の増加による減価償却費負担の増加などで売上原価率は0.76ポイント増となりました。しかしながら、グループ全体において経費削減に努めた結果、販売費及び一般管理費の伸びを圧縮することができ、連結営業利益は8億77百万円（前期比15.9%増）、連結経常利益は8億79百万円（前期比8.1%増）となりました。

なお、連結当期純利益は法人税等の増加により5億81百万円（前期比1.8%減）となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)



POINT

営業活動によるキャッシュ・フロー
営業活動で得られた資金は、15億6百万円となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前当期純利益8億89百万円、減価償却費7億23百万円、支出の主な内訳は、法人税等の支払額2億25百万円です。

投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動で使用した資金は、11億52百万円となりました。支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出10億50百万円です。

財務活動によるキャッシュ・フロー
財務活動で得られた資金は、1億35百万円となりました。収入の主な内訳は、長期借入れによる収入6億28百万円、株式の発行による収入4億58百万円、支出の主な内訳は、長期借入金の返済による支出9億21百万円です。

会社概要／株式の状況 (2014年12月31日現在)

会社概要

商号	竹本容器株式会社 Takemoto Yohki Co., Ltd.
代表	竹本 笑子
設立	1953年5月19日
所在地	〒111-0035 東京都台東区西浅草一丁目5番15号
資本金	3億3,205万9,375円
事業内容	プラスチック製等の包装容器の製造及び販売

役員 (2015年3月27日現在)

代表取締役社長	竹本 笑子
常務取締役	深澤 隆弘
取締役	丸山 正基
	竹本 えつこ
	戸田 琢哉
	穴田 信次
	田中 達也
監査役	石川 雅郎
	伊藤 茂光
	二宮 洋

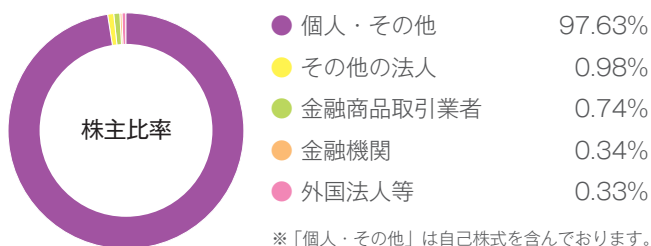
株式情報

発行可能株式総数	20,498,800株
発行済株式の総数	5,682,200株
株主数	2,153名

大株主 (上位10名)

株主名	所有株式数 (株)	議決権比率 (%)
竹本 笑子	1,685,000	29.65
若竹持株会	501,800	8.83
竹本 雅英	390,000	6.86
竹本 えつこ	305,000	5.37
深澤 隆弘	265,000	4.66
竹本 力	227,000	3.99
山本 健人	135,000	2.38
深澤 英里子	110,000	1.94
山本 勝人	100,000	1.76
菅井 信二	65,000	1.14

株式分布状況



株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
期末配当金受領 株主確定日	12月31日
定時株主総会	毎事業年度の末日翌日から3ヶ月以内
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
(同連絡先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
公告の方法	当会社の公告方法は、電子公告としております。電子公告は当社ホームページに記載しており、そのアドレスは以下のとおりです。 http://www.takemotokk.co.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

ホームページのご紹介



<http://www.takemotokk.co.jp>

竹本容器株式会社 🔍